

「プログラム」と「プログラミング」

私がプログラミングを学び始めた20年前と比較すると、「プログラミング」という言葉は一般的になったと感じます。小・中学校でプログラミングについての教育が始まり、プログラミングを学ぶためのプログラミングスクールが事業として成り立つようになっていることからプログラミングがこれからの社会を生き抜くうえで大切なスキルであることがうかがえます。今回はこのプログラミングについて、どのようにプログラミングをするのかという話ではなく、プログラミングという言葉の使い方についてお話していきます。

私は教員をしているのでプログラミングを学習中の学生と話す機会が多いのですが、「課題のプログラミングを見てください」や「プログラミングが間違っているのか教えてください」といった質問を受けることがあります。それぞれ、どうして欲しいのかということは伝わるのですが見て欲しいのは「プログラム」ではないか？間違っているのは「プログラム」なのではないか？と違和感を覚えつつ対応をすることになります。

ここで、先に「プログラム」と「プログラミング」という言葉について説明します。「プログラム」とはコンピュータが何かしらの計算を行うための「命令」の集まり（ひとまとまり）のことを言います。また、「プログラミング」はこのプログラムを作る行為のことを言います。それぞれカタカナで表記されていることから分かりますが元々日本語ではなく外来語です。日本語での「プログラム」は先ほど説明した命令が集まったモノ、つまり名詞として使いますが、英語の“program”は命令の集まりを作成する行為を表す動詞としても使えます。“programming”は“program”の変化系で文法上は動名詞という扱いです。「走る」という動詞の“run”の変化系で「走ること」に対応する“running”と同様の変化をしているためmが2回続きますので気をつけましょう。たまにうっかり“programing”と書いてしまう学生さんを見かけます。昨今の日本語では走ることを指す際にランニングという言葉を使います。「健康のために毎日ランニングする」という言葉に違和感を覚える方はいないと考えます。同じように、例えば人型ロボットにダンスを踊らせるためのプログラムを書く（作る）際に「ロボットの動作をプログラミングする」という言葉を使って表現することがよくあります。プログラムは英語では動詞でもあるので「ロボット

の動作をプログラムする」でも間違いではありません。私の経験上はどちらも使います(むしろ「プログラムする」の方を多用します)がランニングについては「ランする」とは言いませんね。語感が悪いからでしょうか?このような借用語の日本語品詞について、細かく分類し、違いを調査した論文があるので興味のある人は読んでみてください^[1]。

さて、冒頭で紹介した「課題のプログラミングを見てください」という文章に戻しましょう。この学生が私に見て欲しいのはプログラミング(課題をしている様)ではなくプログラム(作ったもの)です。このように、本来はプログラム(名詞)を使用すべき場合にプログラミングを使っているのを見かけます。私が特に良くないと思っているのは「プログラミングを書く」という言葉です。「プログラムを書く」という表現の方が適切ですね。Googleでこの表現を検索すると(“プログラミングを書く”とダブルクォートで囲むと検索できます)この表現を使用したプログラミング初学者向けの解説サイトがいくつか引かかります。非常に残念な気持ちになります。しかし、ただ単に言葉の誤用だと断じてしまうのも良くないのではないかと考えます。これは、プログラミングという言葉が名詞化してきていると考えられるのではないのでしょうか?例えば、似たような「書く」という言葉に関連する言葉に「作文」がありますが「作文を書く」という表現は頻繁に見かけますし、国語辞典では「書いた文章」を指す名詞としても使えると書かれています。では何故プログラミングの名詞化が起きてきているのか?また、私のように20年前からプログラミングに触れている人はみなさんこの違和感を覚えてしまうのでしょうか?正確なことはもっときちんと調べないと分かりませんが、この名詞化はプログラミングが広く世の中に普及しつつあることと関係があると考えます。現代人の中にはそれこそプログラムという言葉より先にプログラミングという言葉を知るといった例が増えているのかもしれない。そのため、プログラムに関することも自身にとって聞き馴染みのあるプログラミングという言葉をついつい使用してしまい、名詞化してしまうのではないのでしょうか?

言葉は時代と共に変化していくため、私の持つ違和感は世間から見ると今後少数派(マイノリティ)になっていくのかも知れません。その変化への些細な抵抗として、現在プログラミングを学んでいる、これから学ぼうと考えている皆さんは今回の説明を踏まえて「プログラム」と「プログラミング」という言葉を意識して使い分けてもらえるとうれしいです。

参考文献

[1] 野中 博雄, “カタカナ語における英語品詞と日本語品詞との関連性について —402語の「する」付加される英語借用語の語彙範疇化—”, 桐生大学紀要, 26巻, pp. 19-32, 2015.

(東京都市大学 藤原賢二)